

教養を身につける

もう一回SSの続きを中断し、今号は二月十一日建国記念の日に行われる第三回経営者養成研修同窓会(第八十四回塾アイウィル例会併行)を紹介する。同窓会の母体というか生みの親が塾アイウィルである。今まで宣伝したことがないので「こんな会があったのか」と思う人が多いだろう。

猪瀬氏の人間性にもとる行為

二十年ほど前、H&Kの亀井氏の会に有名な先生を呼べば高額の治療とアスカの丸淳一が「経営者の講演料を払わなければならぬ。勉強会を作りましょう」と持ち掛

てきた。経営者の会合は異業種交流会などいろいろある。名称は立派だが内容空虚なもの、上っ面だけの商売つみむきだしのものが大半で、タメになる会合は少ない。経営者が人間として成長できる勉強の場がほしい、というのが発案の動機だった。

「それはいいですね」と答えたが先頭に立つて行動する気はなかった。それを感じとったか二人は、名称は塾アイウィル、通称染谷塾にしましょうとおだてあげて私の意欲を喚起した。

三友鋼機の佐々木大八、青原味噌の青木敬信、バイク急便の大槻壽美、ニッコーの山崎貞雄、金馬の高濱正敏、旭紙工の橋野昌幸、ヘイコーパックの鈴木健夫らが初期からのメンバーである。他にも何人か初期からのメンバーがいたが会風に合わず辞めていった。また誘われて入会したがが、一度出て清める人も少なくなかった。

会風は地味。全員「さん」付け呼びの平等主義。年四回の勉強会だが外部講師は招かない。専門家が有名人の講演を聞きたいなら自分でそうした会に行けばいい。人間だけが持っているもの、その

れは「言葉」である。

人間性とは大人(社会人)が身に付けているべき性質であり、その鍵は言葉にある。言葉を多く持つ人は読む、書く、話す、聞く能力がある。理解力、表現力そして思考力が優れている。こうした大人は知識教養人格が優れている。すなわち人間性は知識教養人格であり、その土台は言葉である。読む、書く、話す、聞くによって知識教養人格が磨かれるのである。

こうして考え方に基づいて塾アイウィルは会員スピーチとレポート作成を行っている。とはいえ言葉のプロといわれる作家にも人間性にもとる人がいる。元東京都知事猪瀬直樹氏。病院誘致の話の見返りに五千万円もらった。この行為は人間性にもとるものではない。世話をすればお礼がくる。お中元にお歳暮、世の慣わしである。誰でもしている。しない人のほうが人間性にもとる。五千万円のお礼は額が大きい。これだけの大金になると公務員の場合収賄贈賄の犯罪になる。だが贈収賄は大昔から世界中で行われている。日本の官僚政治家は他国

と比べれば少ないがそれでも、浮気と同じように陰で無数に行われている。発覚するのは万に一つである。

問題は不幸にも発覚した場合である。事実を隠し、嘘をつき、言い訳する。そのうえ地位役職に未練を持ち、「年間給料を返上するから知事を続けさせてくれ」と懇願する。この言動が人間性にもとるのである。

世間に知れたら潔く腹を切る。マスコミの取材には「やりました。知事を辞めます。あとは警察の問題です、以上」と頭を下げてオシマイにする。このようにできる人間性を疑う」などと非難されることはない。優れた人間性の持ち主である。

この例から言えるように、スピーチやレポートは人間性向上の手段であり、効き目がない人もい

る。塾アイウィルに何年出席してもあまり成長が見られない人がいるが、猪瀬氏のような人もいるのだから仕方ない。人間性向上のためにこれ以上いい方法はない。よって効き目五十%でもこれでもいい。かない。

現在、塾の会員は二十六人(うち三人は私を含めたアイウィル社員)。二十三人のうち十八人は経営者養成研修の卒業生で、いつの間にか塾は経営者養成研修のOBの様相を呈するようになった。

塾の存在が知られていないので、入会する人が卒業生に限られてしまったのである。塾アイウィルは卒業生のOB会ではない。かといって、以前あつうの異業

経営管理講座 301 染谷和巳

種交流会のつもりで入会して自社商品のセールスに務めた人がいたが、露骨に聞かれない。結局数回出席して消えていった。また自分はどう人から教えてもらうことはないという自信家は、謙虚に学ぶ姿勢がないため、やはり長続きしない。誰でも入会できるが、金儲けしか頭にならない人や、すぐに結果を求めるせっかちな人はこの会に向かない。「経営者はとりわけ知識教養人格を磨かなければならない」と心から思っている人のための会なのである。

東京駅の近くの会議室を借りて行っている。経営者が経営者に準ずる人でこうした考えの持ち主ならいつでも誰でも入会歓迎である。さて、毎年一回の十八ヵ月間経営者養成研修(人間性向上を目的とした自己啓発研修)はこの三月に第二十四期が開かれる。

五年前、塾アイウィルで第八期卒業の鈴木健夫が「同窓会をやりたい」と提案した。各期ごとの卒業生の集いはしているが、全体の同窓会は行われたことがない。また違った勉強の場になると思うので軌道に乗った。

教養を身につけるための勉強

人間性は知識教養人格だと言ったが、三つのうち教養が特に重要。教養とは知恵のこと。知恵とは判断処理能力である。問題が起きたらどうすればいいか考え適切に処理(解決)する。これができるのが知恵のある人である。教養を身につけるには幅広い知識が必要である。専門ばかりといわれる人は知識の幅が狭い。大学の1、2学年に一般教養科目がある。英独仏の語学、国文学、漢文、哲学、倫理学、心理学、社会学、経済学、地理、日本史、憲法、生物、化学などである。

この一般教養科目は旧制高等学校の教養課程を引き継いだもので、専門課程に入る前のどっしりとした土台作りといえる。しかし今の学生には教養を身につけるための勉強だという自覚がないし、授業内容がつまらないこともあって最低単位をとることしか考えない。教養課程は完全に形骸化している。そのため一流大学卒でも教養ある真のエリートは皆無なのだ。

でやってみようかと聞く。「いいですね」と私は答えた。しかしそう答えてこのことをすぐ忘れた。人を集めるのは面倒だし、規模が大きいので実現しないだろうと思つたからである。

平成二十二年二月十一日、第一回経営者養成研修同窓会が開催された。盛会であり、その進行運営は見事であった。

鈴木が数人の会員と力を合わせて、このわずらわしい「仕事」を成功させたのである。一銭にもならないこと、何の得もしないこと、しかし人のためになる意義のあること、こうしたことに時間とエネルギーを喜んで投入する人は偉い人である。大半の人は口で言うだけで行動しない。だから行動する人は光る。寝る時間を削って同窓会の雑事に取り組む鈴木を見て、おそらく鈴木的身近にいる女性は「何でそんなムダなことしているのよ!」となじつたであろう。一見ムダなことには真剣に取り組む男の値打ちには女には解らない。

二年に一回の同窓会は鈴木の方で軌道に乗った。た土台作りといえる。しかし今の学生には教養を身につけるための勉強だという自覚がないし、授業内容がつまらないこともあって最低単位をとることしか考えない。教養課程は完全に形骸化している。そのため一流大学卒でも教養ある真のエリートは皆無なのだ。教養は仕事と関係ない知識、ムダな知識をどれだけ蓄えているかで決まる。もちろん幅広い知識を持つについても応用できない「知恵」のない人はいるが、幅広い知識がなければ知恵者にはなれない。この理念に基づいて、仕事に直接役立たない勉強に、塾アイウィルも経営者養成研修も一貫して大まじめに取り組んでいる。